

D - 10 PFIの事業形態と事業方式

(1)事業形態

PFIの事業形態は、事業収入構造の相違によって次の3つの形態に整理される。

独立採算型	公共の事業許可に基づき、民間の採算がとれる分野で、民間が建設して事業を運営する形態。投資の回収は、利用者からの料金収入による。		
	国内事例	港湾コンテナターミナル施設（北九州市） 駐車場（大阪府）	
	海外事例	有料橋、博物館、有料公園等	
ジョイント・ベンチャー型	公共と民間の事業ニーズが合致し、公共と民間の両方の資金を用いて施設の設計、建設、維持及び管理を行うことで公共が単独で行うよりも事業費が削減できる。		
	国内事例	宿泊施設（神戸市） 余熱利用施設（福岡市）	
	海外事例	有料道路、鉄道、病院等	
サービス購入型	民間が施設を建設し、料金を得るか、リース方式で投下コストを回収するタイプ。投資の回収は、原則公共からのサービス対価支払による。		
	国内事例	大学、衛生研究所、美術館（神奈川県）、小学校（調布市）、浄水場 発電施設（東京都）、ごみ処理事業（大館広域市町村圏組合）等	
	海外事例	一般道路、学校、庁舎、病院、刑務所等	

⇨ : サービス提供

⇨ : 料金支払

なお料金支払は、利用者から SPC に対するものは施設の利用料金、公共から SPC に対するものはサービス対価の意味合いで支払われるものである。このほか公共から SPC に対する資金の流れとして補助金等の公的資金があるが、図中では略している。

(2) 事業方式

PFIの事業方式には、事業の実施過程（資金調達、設計・建設、運営、事業終了）における公共と民間との役割の相違によって、次の3つの代表的な方式がある。

BOT (Build Operate Transfer)	民間が自ら資金調達を行い、施設を整備し、一定期間施設を運営し資金回収した後、公共にその施設の所有権を移転する方式。
BOO (Build Own Operate)	民間が自ら資金調達を行い、施設を整備して運営する方式で、公的部門への譲渡を伴わない方式。BOTと異なる点は、事業終了段階で施設の所有権移転を行わず、民間が保有し続けるか、撤去をする点にある。
BTO (Build Transfer Operate)	民間が自ら資金調達を行い、施設を整備した後、施設の所有権を公共に移転したうえで、民間が施設の維持管理、運営を行う方式。

BOT方式とBOO方式とでは、事業期間終了後の施設の撤去処分に関する負担に差違が生じる。これまでの国内事例をみると、公共が施設を所有するBTO方式がBOT方式に比べやや多い。特に事業形態がサービス購入型の場合にBTO方式がより多く選択される傾向が見られる。これはSPCの固定資産税負担が公共の財政負担に跳ね返り、公共財政負担の縮減に逆行する点や、BTO方式の方が補助金の取得手続き上容易な傾向にある点等が要因になっていると想定される。

なお、これら以外にも様々なバリエーションがあり、対象事業に適した方式を構築する必要がある。例えば施設をリースする方式として主に次の2方式がある。

BLT (Build Lease Transfer)	民間が資金調達・設計・施工した施設を、公共に一定期間リースし、あらかじめ定められたリース料で事業コストを回収した後、公共に施設の所有権を移管する方式。
BLO (Build Lease Operate)	民間が建設した施設を、公共が買い取り、民間にその施設をリースし、民間がその施設の運営を行う方式。資金調達は公共が行う。

さらに、英国において、PFIというコンセプトが定着する以前に用いられた表現で、DB（デザイン・ビルド）、DBO（デザイン・ビルド・オペレート）、DBFO（デザイン・ビルド・ファイナンス・オペレート）がある。これらは性能発注を前提とする場合に用いられ、箱物施設等のリースとの対比で用いられる。すなわち、リースは、民間が建設した施設を単純に公共が賃借するものであるのに対して、特にDBFOは、性能発注が前提のため民間事業者の設計の自由度が高く、運営面でも創意工夫によりコスト削減し、ベスト・バリュースォーマネーを獲得する方式として選択され、実質的にBTO方式の枠組みで行われるものである。

DB (Design Build)	民間が設計・建設を一括して行い、施設の所有、運営、資金調達については公共が行う方式。(施設施工一括発注方式) 民間への依存が小さいため、DBOにくらべて民間が負うリスクは小さい。
DBO (Design Build Operate)	民間が施設の設計・建設・運営・維持管理を一括して行い、施設の所有、資金調達に関しては公共が行う方式。 ただし、公設民営ではなく、民間事業者が施設を設計・建設後、公共側が施設を買い取り、その後民間事業者に施設の使用権あるいは使用許可を与える方式。
DBFO (Design Build Finance Operate)	民間が施設の設計・建設・資金調達・運営・維持管理を一括して行う方式。公共は民間にサービス提供の度合いや、利用者数に応じて代金を払う。

以上の各種方式における民間と公共の役割分担の違いをまとめると、下表のようになる。

種類		資金調達	設計・建設	維持管理 運営	所有(契約期間中)		
					建設中	運営中	終了後
PFIの 主要手法	BOT	民間	民間	民間	民間	民間	公共
	BOO	民間	民間	民間	民間	民間	民間 または撤去
	BTO	民間	民間	民間	民間	公共	公共
リース方 式	BLT	民間	民間	民間	民間	民間	公共
	BLO	公共	民間	民間	民間	公共	公共
DB方式	DB	公共	民間	公共	民間	公共	公共
	DBO	公共	民間	民間	民間	公共	公共
	DBFO	民間	民間	民間	民間	公共	公共

事業費が数百億円規模にもなる大型プロジェクトで、公共の地方債の発行枠に余裕がある場合は、資金調達で公債を利用でき、またSPCが減価償却を負わないBLO(ビルド・リース・オペレート)やDBO(デザイン・ビルド・オペレート)等が現実的かつ有利となり、結果的に公共の負担するLLC(ライフ・サイクル・コスト)は低減できる。

BLOやDBOでは公共が資金調達することから、厳密にはPFI法の定める特定事業には該当しないが、PFIの一手法として扱われることが多い。